

グローバルな知財体制を

加藤 幹之

(米国弁護士、

前(株)富士通総研専務取締役)

1．知財の立法は、よりグローバルな視点で行うべきだ

クラウドコンピューティングの時代になり、ビジネスに国境が無くなってきた。法制度も、国際条約や諸外国の制度を常に意識して、さらに国際的整合性をとってほしい。但し、グローバルというのは、不適切な諸外国の制度をそのまま受け入れて、日本に妥協しろということではない。日本が正しいと考える、あるべき姿を積極的に主張し、国際的に普及する努力が必要である。

2．日本の裁判所は、もっと国際案件を取り扱うべきだ

大型の国際紛争は、ますます多国化している。企業間の紛争は、一回的解決が期待されるが、日米欧等、多国で同時に訴訟を行うのは、費用も時間もかかる。日本の知財裁判制度は、国際的に見ても第一級になっており、日本の裁判所がもっと広く国際案件を取り扱えるよう、訴訟法及び実体法の改正について、検討を始めるべきである。

3．特許以外にも著作権やトレードシークレットの保護に取り組むべきだ

企業の中で技術やノウハウ等を適切に保護・活用するには、特許、著作権、トレードシークレット(営業秘密)の3つの制度が、三位一体となって活用される必要がある。企業の知財部門をはじめとして、知財の専門家は、特許分野だけに偏らず、広く知財制度全体の見識と経験を積み、総合的なアドバイスを行うべきだ。

4．差し止め請求権の制限

情報通信技術の分野では、ネットワークがつながり、互いに情報を共有する仕組みがさらに重要になっており、そのための国際標準化が必須となっている。しかし、自分では製品を作らないが、標準にかかわる知財権に基づく差し止めを主張して、不当に高いライセンス料を請求する、いわゆる特許トロールが発生している。差し止め請求権の行使について、何らかの基準や制限を検討するべきである。

5．コモンズの世界の拡大

インターネットやクラウドコンピューティングが広まり、情報の共有やより自由な利用が求められている。海外では、主に文芸著作物の分野で「クリエイティブコモンズ」の活動が拡大しており、また特許の世界でも「パテントコモンズ」を宣言する企業が現れている。日本でもLinux等のオープンソースも含め、コモンズの世界を積極的に拡大する施策が必要である。

6．消費者向けのオンラインADRの創設と活用

オンラインでの取引やインターネットの普及で、ネット上の知財やプライバシー侵害等の不正行為が今後さらに増加するものと思われる。ドメイン名の不正使用についてのオンライン紛

争解決手段の例のように、消費者や個人が安価で早期にオンラインで解決できるADRを創設し、普及させるべきである。

7．技術データベースのさらなる充実と活用促進

クラウドコンピューティングの時代になり、世界の情報が簡単に利用できるようになりつつある。同時に、巨大企業や国家が大型のデータセンターを設立して、情報の独占を進める懸念も指摘されている。日本も、国をあげて特許や技術、文化遺産等、国家的なデータベースを充実し、日本の技術や文化の維持向上に努めるべきである。

8．日本でもイノベーション・エコシステムを充実する必要がある

米国では、長い歴史を通じて、ベンチャーを生む外部環境が育成されて来た。そこでは、ベンチャーキャピタル、技術やビジネスに強い弁護士や会計士、金融やマーケティングの専門家、技術の目利きができるコンサルタント等が、イノベーション創出のエコシステムを形成している。日本は、素晴らしい技術はあっても、それを事業として育てるエコシステムの育成が不十分であり、こうしたエコシステムを充実する施策を実施する必要がある。

9．もっとイノベーション・エコシステムを使おう

日本でイノベーションのエコシステムが十分整備されないのには、それを使う側にも問題がある。米国では、大企業の多くが社内でベンチャーキャピタルを立ち上げ、自社技術をスピンアウトし、外部技術への投資を進める、等、エコシステムを利用してオープンイノベーションを積極的に推進している。日本でも、経営幹部、技術者共に、全て自前主義ではなく、こうしたエコシステムを活用していくべきである。

10．弁護士や弁理士は、もっと広くビジネスのアドバイスをすべきだ

一般論ではあるが、日本の弁護士や弁理士は、活動範囲が法律や技術の専門分野に限られ、米国の弁護士に比べると狭いように見える。知財分野においても、技術の発掘、権利化、経営資源としての広い知財活用のすべての面で、顧客のビジネスに貢献する機会は多く、顧客もそうした幅広いアドバイスを求めていると思われる。日本の弁護士や弁理士も、法律の知識や技術の理解を背景に、もっと広く、深く顧客のビジネスに参加すべきであり、そのための人材育成に努力すべきである。

以上